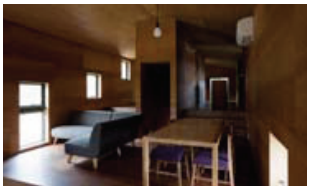
服部信康氏が語る 木を守り、変化を楽しむ

キシラデコール

問合せ　日本エンバイロケミカルズ株式会社
tel 06-6268-3428
http://www.xyladecor.jp

服部信康氏。



上：「ぷーさん食堂」北東側外観。右：ラワン合板の外壁はキシラデコール仕上げ。「キシラデコール やすらぎ」約90%と「キシラデコール」ウォルナット色が約10%の配合。左中：リビングより見る。左下：1階食堂。　撮影：新建築社写真部

自然素材である木には、風合いの変化を楽しむことができるという特徴がある。一方で、そのまま使用するとさまざまな原因で腐れが起こってしまう。キシラデコールは自然の風合いを活かしながらカビや腐れ、虫から木を守る木材保護塗料だ。今回、キシラデコールを塗布したラワン合板を外壁に使った「ぷーさん食堂」（本誌1003）の設計者、服部信康氏に話を伺った。

ラワン合板の素材感を活かす

ここは将来的に食堂（カフェ）としても使う予定なので「気に留めてもらえる建物」にしたいと思いました。たとえば、車で走っていると建築途中の木組みやベニヤなど素地の状態はすぐ目につきますが、完成すると風景に溶け込み、建設中や解体中の建物のほうが存在感が出ていることがあります。そんな存在感を生み出すために、ラワン合板を使いキシラデコールを塗ることで予算を抑えながら木の素材感を全面に表現しました。

メンテナンスの考え方

住宅には優しさや温かさといった雰囲気が欲しくなるので、そういう場合には木という素材が活躍してくれます。しかし、木はメンテナンスをする必要がありますから、クライアントが素材としての木が本当に好きかどうかがいちばん重要です。メンテナンスのためのマニュアルをつくってクライアントに渡し、もしメンテナンスができない場合は使わないでくださいとお話しています。メンテナンスの手軽さという意味では、キシラデコールはホームセンターで簡単に手に入るので、クライアント自身で購入し、塗ってもらうことができる点は便利ですね。

設計の際にも、メンテナンスしやすい部分だけに使い、後で塗りにくい場所は汚れにくくするなど工夫します。「ぷーさん食堂」では汚れやすい1階部分はモルタルで仕上げ、ラワン合板を貼った2階部分も切妻屋根の軒を深くしてできるだけ守られるようにしています。

「つつじヶ丘の家」（2006年7月竣工）では、表側の外壁だけをベイスギの鎧張りにしました。約20㎜のかなり厚い木材を使ったため、吸い込みにより塗料が倍くらい必要でしたが、その分メンテナンスの回数は少なくてすみます。

キシラデコールを使うきっかけとメリット

最初にキシラデコールを使ったのは一二、三年前です。当時はあまり木材保護塗料の種類がなく、その中でキシラデコールはすでに実績がありました。防腐・防カビといった性能はもちろん、発色がよいですし、耐久性もあります。三色くらい混ぜて使うことがよくあるのですが、色の調合もしやすいですね。竣工から一〇年以上経った建物を、今仕事をしているクライアントと一緒に訪れて状態を見たのですが、「きれいですね」といわれました。定期的な塗り直しは行っていましたので、ちゃんとメンテナンスをすればきれいな状態が保てることが分かりました。

塗ることで思い出をつくる

木材は玄関や建具など、一部に使うだけで、その風合いが感じられます。メンテナンスしやすい部分に使うだけでもその風合いを楽しめると思います。クライアントにはメリットとデメリットの両方を知ったうえで、経年変化という木ならではのよさを味わってほしいと思います。住宅の場合、純粋に素材を楽しめるというよさがあります。家族が変化するように、木も変化する。そしてその木を長持ちさせるために、キシラデコールが役立っています。

僕のクライアントは、三〇代でお子さんが小さい場合が多いです。メンテナンスを家族一緒に作業すれば、それが子供の思い出になります。それは木を通した家族のコミュニケーションであり、他の素材ではできないことだと思います。コミュニケーションのためのツールとしても木は非常に有効ではないでしょうか。メンテナンスは大変なこともありますが、それを逆に楽しむこともできます。「がんばって塗ったよね」という記憶こそ家族にとっての貴重な財産で、そんな楽しい記憶があれば、次の世代も建物に愛着をもって使い続けてくれるのではないでしょうか。